

令和7年度 授業改善推進プラン <保健体育科>

大田区立大森第十中学校

○保健体育科における令和6年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・ICT機器、視聴覚機器の活用により、運動の楽しさや、自らの成長を実感することができた。
- ・学習カードの活用と工夫により、授業の見通しや過程の確認や修正を確認することができた。
- ・毎時間の補強運動の負荷をかけた実施により、基礎体力向上への意識づけができた。

<課題>

- ・リーダーの育成については、継続して取り組む必要がある。
- ・他者評価や相互理解については、継続して取り組む必要がある。

○保健体育科における観点別の分析

知識・技能

- ・知識に関しては、運動の実践と絡めながら高めていく断続的な授業が必要である。授業の振り返り等で、生徒の理解度の確認をすることが必要である。
- ・運動の二極化が引き続き課題となってくる。授業の中で運動量を多く確保することや、生徒の実態に合わせたスマールステップを意識した授業づくりが必要である。

思考・判断・表現

- ・仲間へのアドバイスや話し合いの場面で、自らの意見を上手く伝えることができずに充実したグループ活動ができないため、話し合いの内容や課題の提示等を工夫する必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

- ・苦手な種目や興味や関心がない種目に対して消極的になってしまう傾向があるため、導入の部分で生徒の関心を引き寄せ、段階的に取り組めるような指導が必要である。
- ・集団で行動することに対して、苦手意識をもつ生徒への指導を工夫する必要がある。

○分析に基づいた授業改善のポイント

★相互理解をし、仲間と協力する力を養う。

仲間と協力をし、話し合いを含めたグループ活動の充実を図る。

★各種目を通して基礎運動能力やリズム感を養う。

毎回の授業の中で補強運動や動的ストレッチを取り入れ、運動能力を高める。

★各種目のルールやマナーを守り、フェアプレー精神を養う。

保健体育、各種目の知識や理解を深めていき、日頃の生活に生かす。

○保健体育科の授業改善策

★相互理解をし、仲間と協力する力を養うために

第1学年

グループ活動の場面を単元内に設定し、ICT機器を用いて自らの分析や仲間の分析をし、仲間にアドバイスできるようにする。

第2学年

グループ活動の中で、役割をもたせ、協働する力を高める。また授業の中の振り返りの場面等で今日の良かった点や工夫した点を発表する機会を設け、仲間の意見を聞く態度や姿勢を正す指導を継続して行い、仲間同士で相互理解できる環境をつくる。

第3学年

各種目等でICT機器を活用することで、自らの分析や仲間の分析をし、仲間にアドバイスできるようにする。そのために仲間の動きをよく見て、正しい表現で伝えることができるよう指導し、相互理解の向上に繋げていく。

★各種目を通して基礎運動能力やリズム感を養うために

第1学年

動きのバリエーションを増やすことを目的に、各単元に関連した動作学習やトレーニングを行う。

第2学年

引き続き、自重でのトレーニングや体幹等の補強運動を行う。

第3学年

準備体操・補強運動の他にも、単元の学習に繋がるトレーニング等を取り入れる。

★各種目のルールやマナーを守り、フェアプレー精神を養うために

第1学年

種目の特性や成り立ちを知り、ルールを工夫することで誰でもが参加できる競技の方法を学ぶことができるようとする。生涯体育の観点から競技の審判や運営などの行い方も指導する。

第2学年

授業の導入の部分や、授業の中で視覚的にホワイトボードやアイテムを使い、ルールやマナーと知識を徹底していく。

第3学年

運動を通して、他者と協働していくためにはルールやマナーが大切だということを学び、適切に学校生活や卒業後の社会生活が送られるようにする。